

国語科学習指導案

指導者 松岡 温日

1, 日時 平成 26 年 1 月 29 日 (水) 5 校時

2, 学年・組 第 1 学年 2 組 (23 名)

3, 単元名 おはなし大すき！ものがたりのせいかいへようこそ！
～「ずうっと、ずっと、大すきだよ」～

4, 教材名 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」

5, 指導事項と言語活動

(1) 指導事項

○場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。(「C 読むこと」ウ)

○文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表しあうこと。

(「C 読むこと」オ)

○文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。

(「C 読むこと」エ)

(2) 言語活動

○音読発表会をすること

6, 単元目標

愛犬「エルフ」と共に成長し、エルフを死ぬまで慈しみ続けた「ぼく」の気持ちを叙述や挿絵に気を付けて想像しながら読み、自分なりの作品世界をもつことができるようにする。

7, 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語事項
・「ぼく」と「エルフ」の心の交流に関心を持って話し合い、進んで音読で読み取ったことを表現しようとしている。	・あらすじをおさえながら、場面の様子や登場人物の気持ちを叙述や挿絵を根拠に、想像を広げながら読んでいる。 (1) ウ ・挿絵と叙述を対応させながら「ぼく」と「エルフ」がしたことを書き抜いている。 (1) エ ・自分の読みが伝わるように、音読発表会にむけて音読をしている。(2) ア	・「いつしか」「まもなく」などの時間の経緯を表す言葉、主語と述語に気を付けて読もうとしている。(1) イ (カ)

8, 児童の実態

児童は絵本が大好きで、担任や、読み聞かせボランティアによる読み聞かせを楽しみにしている。また、6 月中旬頃から「音読がんばりカード」を使って家庭でも音読練習をするよう、取り組み始めた。「追い読み」「交互読み」などを行いながら、読むことにも徐々に慣れてきた。ひらがなの学習を終えたのも、図書室の利用をし始めたのもこの時期である。

児童はこれまでに、言葉と挿絵と経験とを結びつけながら文章を読んでいく経験をしてきた。しかし、自分の思いや考えを言葉に出して表現する子は限られる。友だちの考えと似ているところを写させたり、友だちと同じ言葉で表現することを認めていったりしながら励ましている。「おおきなかぶ」では、動作化を通して、友だちやグループの考えを受け、自分の読みに生かそうとする児童が増えてきた。また、繰り返しの表現のおもしろさについて味わうことができた。「くじらぐも」の学習では、実際に体育の時間にくじらぐもを呼んだり、教師の補助で 30 センチ、50 センチと児童の体を持ち上げて、ふわっと浮く体験をしたりして、想像が広がる読みにつなげた。反面、「作り話だ」と最初からお話の世界と距離をおく子も中にはいる。

一方で、ひらがなや漢字の読みが不十分で音読がとぎれとぎれになる児童、場面の様子がよく分からずに棒読みや怒鳴り声になって音読する児童が少なくない。

9, 教材について

この時期の子どもたちは、平仮名の読み書きの学習を終了し、漢字や片仮名の学習も進んで、文字を読むことに慣れてきている。「おむすびころりん」や「大きなかぶ」「くじらぐも」などの教材により、物語の筋の展開を捉えたり、動作化などによって登場人物の心情や場面の様子を想像したりする学習にも繰り返し取り組んできている。また、教師やボランティアによる読み聞かせで、お話の世界に浸ることの楽しさも経験している。

本教材「ずうっと、ずっと、大すきだよ」は、今までの学習で培った読みの力を定着させるとともに、それを生かして児童が主体的に教材を読み始め、読書の楽しさを体験し、読書に親しみを深めるのに大変適した単元である。

語り手である「ぼく」の成長と照らしながら、エルフの成長を描いているこの物語は、時間的な順序がはっきりし、お話の大体をつかみやすい教材である。しかも、子どもが語り手として、「ぼく」の視点から書かれていること、飼っている動物も身近な題材であることから考えて、自分の身に置き換えて捉えやすいものになっている。また、自分の飼っている生き物の「生と死」のことが直接取り上げられているところが、子ども自身の心情を強く揺さぶり、考えさせるのではないかと思われる。

そこで、エルフを愛し続ける「ぼく」の心情を中心に、子ども自ら主体的に作品を楽しみながら読み進めていくことを大切にしたい。その際、物語の学習の入門期にある子どもたちが、自分なりの作品世界を主体的に読み広げていこうとするためには、一人ひとりが「ぼく」の気持ちを表す叙述についての感想や疑問をもち、そこから生み出した話し合いの課題を窓口に、多様な読みを分かち合いながら自分なりの読みを深めていくことが大切であると考えます。

話し合いを通して、新たな考えや疑問もわいてくることもある。このような姿勢を大いに賞賛し、自分の考えの幅をさらに広げられるようにしていきたい。そこで、「ぼく」の心情が表れるのが一人ひとりの音読の仕方や表情である。音読の振り返りも行っていきたい。音読についての振り返りは、デジタルカメラで撮影した動画で確認していく。

また、子ども自ら主体的に作品を読み進めていくために、挿絵を十分に活用していきたい。挿絵を、順を追っていくことにより、物語の展開を考えたり、挿絵に描かれた人物の表情から、その場面の人物の心情を想像したりした上で、叙述と照らし合わせながら確かめていきたい。挿絵については、デジタル教科書を使用していく。

10, 研究テーマに迫るための手立て

① 緑区小学校情報・視聴覚研究専門部会の研究テーマ

自ら学び続ける子どもを育てるための、情報・視聴覚教育メディアをいかした学習の推進
～明日の授業に役立つ教材・機器の活用～

② テーマに迫るための手立て

○ **手立て1**・・・デジタル教科書の活用

今年度、国語のデジタル教科書を全学年が使えるように国語部と協力して準備をしてきた。教科書に線を引くことや、挿絵に吹き出しをつけることが容易にできる。また、それらは保存することができる。連続した学びを保証していく手立てとなると考える。低学年の児童は特に挿絵による情報から場面を読み取ることもできる。挿絵の並べ替えなどの学習にもいかしていきたい。

○ **手立て2**・・・書画カメラ（エルモ）の活用

書画カメラを使用することで、児童が考えたワークシートを大型テレビに映し出すことができる。書画カメラに映しながら自分の考えを述べていけるようにする。子どもの字が容易に拡大することが手軽にできる。

○ **手立て3**・・・デジタルカメラの動画機能の活用

音読の振り返りで使用する。児童の読みの仕方や表情を撮影して、「ぼく」の心情と絡めながら振り返りを行う。撮影してその場ですぐに見ることができるようにする。ムービーメーカーと併せて使うことで音読の比較ができることをねらいたい。

1 1、本校教育目標および中期学校経営方針との関連

中山小学校 教育目標

豊かななかかわりの中で「生きる力」を身につけます

低学年では、人との関わりとして、まずは隣の児童との意見の交流を目指している。また、教師との関わりも、発達段階を考える上でどのように関わっていけばよいのかを考えていく。人との関わりのほかにも、教材との関わりや、学習問題との関わりを授業に構成していくことで、「豊かななかかわり」を目指している。

中山小学校 中期学校経営方針

共通取組内容 1：確かな学力

子どもが自分で考え、解決していく学びの過程を大切にしています。子どもが楽しく夢中になる学びを創り、意欲的に学習に取り組む力を育てています。

学習問題を児童が考え、それらを話し合いによって深めていきたい。場面と場面のつながりを意識させたり、登場人物の気持ちを整理させたりするために情報機器を活用し、児童の思考の流れを助けていきたい。

1 2、指導計画（本時 8／11）

時	学習活動	学習内容
1	○全文を読み、物語のあらすじをつかむ。 ○登場人物について話し合う。 ○通して読む。 ○「ぼく」とエルフの仲良しが伝わるような音読発表会にする目標を立てる。	・生き物を飼った経験等を発表する ・挿絵や作者名から、外国の物語であるということを確認する。 ・「訳者」について確認する。 ・挿絵に注目させながら、教師の読み聞かせを聞く。 ・文章や挿絵から、登場人物といえるかどうかを考える。「はなのみち」などの学習を想起する。 ※動画を撮影し、単元の終末で音読の仕方を比較できるようにする。 ・2年生に音読発表会をすることを知る。 (学習のゴール)
2	○初発の感想を書き、交流する。	・登場人物の気持ちを考えながら教師の範読を聞く。 ・初発の感想をもとに、児童とともに学習計画を立てて、進めていくことを知る。
3	○大きく場面を分ける。 ○初発の感想から出てきた疑問などを取り上げ、他に「はてな」と思うところを短冊に書く。	・「どうして○○○なのだろう。」「なぜ○○○なのかな。」などの文型を示し、短冊に書き、出てきた「はてな」をまとめていく。 ※児童側から課題が生まれなかったところについては、教師側から課題を投げかけていき、みんなで考えていくようにする。
4	○登場人物について考える。 ○一の場面（①、②）【エルフの紹介】から、「ぼく」がエルフの思い出話をしていく場面であることを想像する。	・「エルフのことをはなします。」の一文や、「ぼく」の気持ちは書いているが、エルフの気持ちが書かれていないこと、一の場面だけ敬体で書かれてあることを根拠に、この物語は「ぼく」を視点とした話であることを知る。

5	○二の場面 (③～⑨)【元気なエルフと「ぼく」の家族】から、「ぼく」の行動や家族の行動を比較して想像しながら読む。 ○読み取ったことを音読に表す。 ○第1時に撮った動画を見て比べる。	・「ぼく」と家族の行動を確認する。 ・どうして、エルフは「ぼく」の犬だったのか話し合い、エルフへの思いが大きいことを想像し、吹き出しに書く。 ・家族も「ぼく」も同じくらいエルフが好きだけど、「ぼく」は「すき」と言ってあげていたことをつかむ。 ・「ぼく」に言ってあげたいことを書き、発表する。 自分も同じ、よく分かるということ (共感) 聞いてみたいことや確かめたいこと (疑問) 自分だったらこうしている (反発) ・一、二の場面の音読を撮影し、振り返る。(動画)
6 7	○三の場面 (⑩～⑭)【エルフの老い】と四の場面 (⑮～⑰)【エルフの死】を読み、挿絵や「ぼく」の行動からエルフへの思いを想像する。 ○読み取ったことを音読に表す。 ○第1時に撮った動画を見て比べる。	・「いつしか」という言葉や挿絵から時間の経緯があることをつかみ、「ぼく」が成長するのに対して、エルフが老いていくことをつかむ。 ・「まもなく」という言葉から、心配もつかの間、すぐに容体が急変していく様子をつかむ。 ・どうして、「ぼく」の部屋で寝なくてはいけないのか吹き出しに書き、話し合う。 ・「ぼく」の部屋は、挿絵から、2階にあることを確認する。 ・挿絵から、幼い「ぼく」ではなく、エルフの命や、健康、エルフの気持ちを考えてあげられるように成長したことを想像する。 ・エルフが死んだ時の、「ぼく」の気持ちを吹き出しに書き、話し合う。 ・「ぼく」に言ってあげたいことを書き、発表する。 ・三、四の場面の音読を撮影し、振り返る。(動画)
8 (本時)	○五の場面 (⑱～⑳)【エルフの死後】を読み、「ぼく」の行動からエルフの思いを想像する。 ○読み取ったことを音読に表す。 ○第1時に撮った動画を見て比べる。	・どうして、子犬をいらないって言ったのか話し合うことを通して、多様な読みができることを知る。 ・「ぼく」に言ってあげたいことを書き、発表する。 ・五の場面の音読を撮影し、振り返る。(動画)
9	○前時の学習を想起する。 ○題名について話し合う。 ○「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の中で、一番心に残った場面を発表する。(わけも入れて話す)	・「ぼく」に言ってあげたいことを書き、発表する。 ・一番心に残った (お気に入りの) 場面の選択をもとに、グループ分けをする。 ・次時の音読発表会の練習につなげる。
10	○音読発表会の練習をする。	・グループ分で練習をする。 ・グループ同士で聞きあいをする。(動画を撮る) ・動画を見て自分の読みを振り返り、さらに練習をする。
11	○音読発表会をする。	・今までの学習を生かして、音読発表会をする。 ・2年生に感想をもらう。

13、本時目標

隣の子がくると言った子犬を断った「ぼく」の気持ちについて話し合うことを通して、自分の思いや考えを深め、想像を広げることができる。

1 4、 本時の展開

◇児童の活動 ・ 予想される児童の発言	□教師の支援 ☆評価
前時までの確認をする。 ◇学習課題の確認をする。	□初発の「はてな」と思ったことから問題を取り上げて、みんなで考えていくよう促す。 (「はてな」がない場合は教師から課題を提示)
どうして、となりの子が子犬をくれるといったのに、「ぼく」は、いらないっていったのだろう。	
あなたが「ぼく」だったら、となりの子が子犬をくれるといったら、子犬をもらいますか、それとももらいませんか。そのわけも話しましょう。 ◇考えたことを隣の座席の児童と意見交換をしてから全体へ発表をしていく。 《もらう》 ・ エルフがいなくてさみしいから。 ・ せっかく「あげる」といっているのです。 ・ エルフは気にしないから。 《もらわない》 ・ エルフのことがまだ好きで忘れられないから。 ・ 新しい犬を飼うとエルフが悲しむから。 では、どうして、となりの子が子犬をくれるといったのに、「ぼく」は、いらないっていったのだろう。 ◇考えたことを吹き出しに書き、発表する。 ・ 同じ犬でもエルフの代わりにはならないから。 ・ 「ぼく」の犬はエルフだけだから。 ・ 新しい犬を飼っても、悲しい気持ちはなくならないから。 ・ この子犬は、この子で生まれたので自分がもらおうと子犬が悲しむから。 ・ 今はエルフのことだけを考えていたいから。 ・ エルフは気にしないとおもうけど、「ぼく」はエルフのことを気にする気持ちがあるから。 ・ エルフがやきもちをやくと思うから。 ・ エルフとたくさん遊んでいい思い出になっているから。 「ぼく」とエルフの仲良しが伝わるような読み方で、五の場面をもう一度読みましょう。 ◇五の場面の音読を行い、第1時の読みと比較して、振り返りを行う。	□自分事として考えられるようにする。 □隣の座席の児童と意見交換が難しい場合は、もらうのか、もらわないのかのみでもよいことにする。 □名前マグネットを用いて視覚的に互いの考えの違いを捉えやすくする。 □「〇〇さんと似ていて…」 「〇〇さんとすこしちがって…」 など、友だちの考えと結びつく発言をする児童を賞賛する □考えがまとまらない児童には、友だちの考えに近いものをまねてもよいことにする。 □発表したい児童から次々と発表をさせていく。机間指導をもとに、意図的な指名も視野に入れる。 □叙述と関連づけながら分類してデジタル教科書に保存する。 □恣意的な読みが続いた場合は、全員で関連部分を音読し、叙述に立ち返って考えていく。 ☆「ぼく」の行動について、自分の考えを積極的に述べようとしている。【関心・意欲・態度】 ☆叙述をもとにして、自分なりに想像を広げて読もうとしている。【読むこと】 □最初に撮影したものと比較して、教師が児童の読みを評価する。時間があれば、友だちの良いところを発表する。

